

東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター

# 母親の育児環境と心身健康に 関する一考察

Working Paper Series Vol.25

落合恵美子 郭雲蔚 姚逸葦

2022年6月6日

この Working Paper の内容は著者によるものであり、当センターおよび東京都立大学の見解を反映したものではありません。なお、一部といえども無断で引用、再録することを禁じます。

子ども・若者貧困研究センター



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

## 1. 研究目的

本報告書は、主に母親の育児環境に注目し、母親の就業形態、育児孤立の状況が養育者としての母親本人と子どもの心身の健康に与える影響を考察する。

## 2. データと使用した変数

本稿に用いたデータは、東京都が 2016 年度に首都大学東京（現、東京都立大学）に委託して行った「子どもの生活実態調査」である。本調査は、東京都内の 4 自治体（墨田区・豊島区・調布市・日野市）の小学 5 年生、中学 2 年生、高校 2 年生年齢の子どもをすべて住民基本台帳から抽出し、調査票を郵送で配布している<sup>1</sup>。当該調査は子ども票と保護者票を含み、親子の情報をリンクできる利点を持っている。調査対象者数が 19,929 世帯であり、調査で得られた有効回答数に関して、子ども票が 8,367 票で、保護者票が 8,429 票である。有効回答率について、子ども票が 42.0%で、保護者票が 42.3%となっている。

分析に用いる独立変数は主に就業形態と育児孤立の状況からなっている。まず、母親の就業形態について、「フルタイム」、「パートタイム・自営業・自由業」、「主婦・無職」という 3 分類を採用した。具体的には、「会社役員」、「民間企業の正社員」、「公務員などの正職員」を「フルタイム」に分類し、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」、「学生」、「自営業（家族従業者を含む）」、「自由業」、「団体職員」、「その他の働き方をしている」といった諸類型を「パートタイム・自営業・自由業」にした。残りの「専業主婦」、「引退（退職）」、「その他の無職」は、「主婦・無職」に分類された。次に、育児孤立の状況に関して、主に「育児孤立（子どもの看病してくれる人の不在）」と「育児孤立（相談相手の不在）」の二種類に分けて分析を行った。「育児孤立（子どもの看病してくれる人の不在）」について、調査票の「お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか」という問いに対して「いない」と回答した人を孤立と扱う。「育児孤立（相談相手の不在）」について、「あなたは、本当に困った時や悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）」がいますか。」という項目で「いない」と回答した人を孤立とみなす。

本稿で用いた従属変数は心身の健康である。主に、母親本人および子どもの身体健康に対する主観的評価、および母親のうつ傾向を対象とする。まず、身体健康に対する主観的評価について、「よくない」、「あまりよくない」、「ふつう」、「まあよい」、「よい」といった 5 つのカテゴリーを点数が大きければ主観的健康の評価が良いように 1 から 5 までと配点する。次に、保護者のうつ傾向を測定するために、「次の A～F の質問について、あなたは、ここ 1 か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか」の質問に含まれる 6 項目の回答を用いる。6 項目は具体的に「A 神経過敏に感じた」、「B 絶望的だと感じた」、「C そわそわ、落ち着かなく感じた」、「D 気分が沈み込んで何が起こっても気が晴れなく感」、「E 何をするのも骨折りと感じた」、「F 自分は価値のない人間だと感じた」からなっている。選択肢の「いつも」、「たいてい」、

---

<sup>1</sup> 本調査の二次分析は、東京都から東京都立大学子ども・若者貧困研究センターが許可を受け、落合恵美子（京都大学教授 兼 東京都立大学人文社会学部客員教授）が行った。

「ときどき」、「少しだけ」、「全くない」にそれぞれ4から0まで配点し、6項目の得点の合計を「うつ傾向」として分析で利用する。ちなみに、6項目のクロンバックの $\alpha$ 係数はおよそ0.9（小学生票は0.887；中学生票は0.894）であり、6項目の得点を合計する処理が適切と言える水準になっている。

本稿は、主に母親の状況に注目するため、回答者が子どもの母親であるケースに限定し、該当調査の保護者票を用いる。データを上記にあげた変数に基づいてリストワイズ除去を行い、実際に分析で用いたのは全体有効回答者数8,429ケースの中の1,910ケースである。

上記に挙げた就業形態、育児孤立の状況、心身の健康といった変数以外に、本研究では年齢、等価世帯年収、同居家族人数、子ども数、ひとり親ダミー、国籍も統制変数として使用された。各統制変数の分布も独立変数と従属変数と合わせて表1で示している。

表1のとおり、小学生票と中学生票において、主婦・無職の女性はそれぞれ33.2%と22.0%を占めている。「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」と回答した母親は、小学生票の場合は18.4%であり、中学生票の場合は20.6%である。「困った時や悩みがある時の相談者がいない」と回答した母親は、小学生票と中学生票の中でそれぞれ4.9%と6.9%を占める。

表1 記述統計量

| 変数        | 小学生票 |       |         |         | 中学生票 |       |         |         |
|-----------|------|-------|---------|---------|------|-------|---------|---------|
|           | 最小値  | 最大値   | 平均値     | 標準偏差    | 最小値  | 最大値   | 平均値     | 標準偏差    |
| 年齢        | 30   | 55    | 42.290  | 4.154   | 31   | 66    | 45.070  | 4.265   |
| 等価世帯年収    | 0    | 526.5 | 341.300 | 130.895 | 0    | 526.5 | 349.190 | 128.184 |
| 同居家族人数    | 2    | 10    | 4.242   | 0.874   | 2    | 8     | 4.245   | 0.921   |
| 高等教育      | 0    | 1     | 0.841   | 0.366   | 0    | 1     | 0.824   | 0.381   |
| 子供数       | 1    | 5     | 2.117   | 0.724   | 1    | 5     | 2.111   | 0.754   |
| ひとり親世帯    | 0    | 1     | 0.019   | 0.136   | 0    | 1     | 0.022   | 0.147   |
| 外国籍母親     | 0    | 1     | 0.005   | 0.072   | 0    | 1     | 0.006   | 0.097   |
| フルタイム     | 0    | 1     | 0.175   | 0.380   | 0    | 1     | 0.167   | 0.373   |
| パート・自営    | 0    | 1     | 0.503   | 0.500   | 0    | 1     | 0.613   | 0.487   |
| 主婦・無職     | 0    | 1     | 0.322   | 0.468   | 0    | 1     | 0.220   | 0.414   |
| 孤立：子どもの看病 | 0    | 1     | 0.184   | 0.387   | 0    | 1     | 0.206   | 0.405   |
| 孤立：相談相手   | 0    | 1     | 0.049   | 0.216   | 0    | 1     | 0.069   | 0.253   |
| うつ傾向      | 0    | 24    | 3.679   | 4.088   | 0    | 24    | 3.625   | 4.012   |
| 親健康評価     | 1    | 5     | 4       | 1.037   | 1    | 5     | 3.916   | 1.068   |
| 子ども健康評価   | 1    | 5     | 4.455   | 0.859   | 1    | 5     | 4.362   | 0.915   |
| N         | 956  |       |         |         | 954  |       |         |         |

### 3. 母親の就業形態と心身の健康

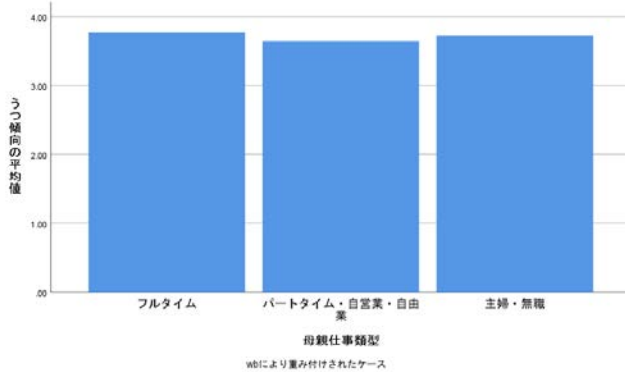


図 1 母親の就業形態と母親のうつ傾向  
(小学生票)

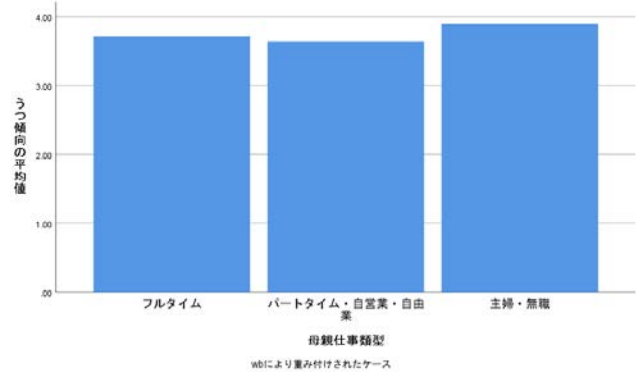


図 2 母親の就業形態と母親のうつ傾向  
(中学生票)

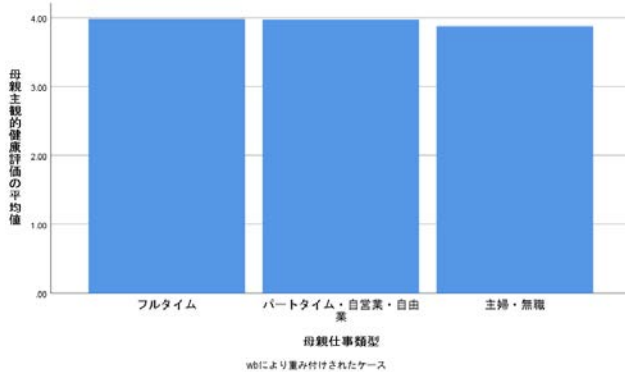


図 3 母親の就業形態と母親の主観的健康評価  
(小学生票)

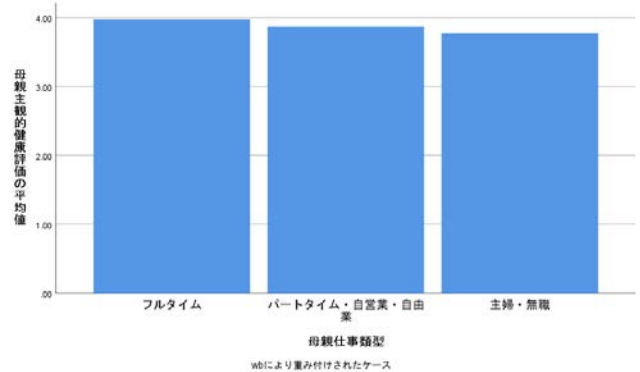


図 4 母親の就業形態と母親の主観的健康評価  
(中学生票)

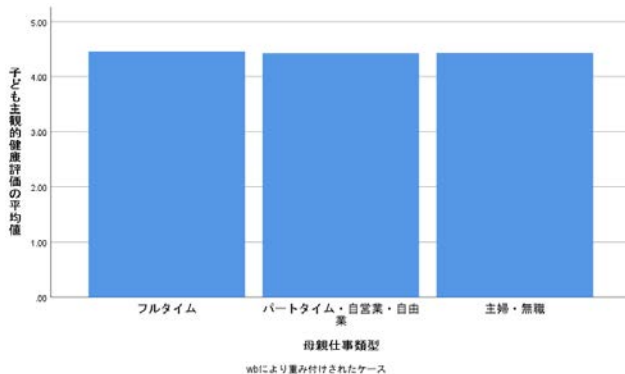


図 5 母親の就業形態と子どもの主観的健康評価  
(小学生票)

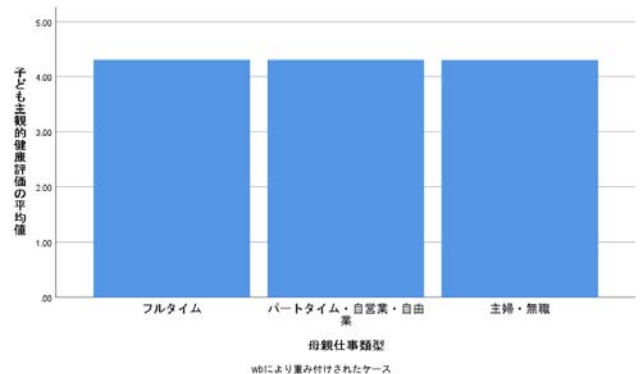


図 6 母親の就業形態と子どもの主観的健康評価  
(中学生票)

まず、母親の就業形態と心身の健康を見ていこう。小学生票と中学生票をそれぞれ用い、異なる就業形態で就業している母親の間に、母子の健康への評価と母親のうつ傾向に違いがあるかを比較した。それを図にしたのは図 1 から図 6 までとなる。比較の結果、「主婦・無職」の母親の方が他の就業形態の母

親より、主観的健康評価がより低い。中学生票の場合には、主婦・無職の母親は、うつ傾向が比較的に高い。「フルタイム」と「パートタイム・自営業・自由業」で就業している母親の間には、大きな差が見られなかった。また、母親の仕事類型と子どもの主観的健康評価の間には、関連性が特に見えない。

さらに、他の変数を考慮した上で母親の就業形態が母親と子どもの心身の健康に及ぼす影響を調べるために、母親と子どもの主観的健康評価とうつ傾向を従属変数に回帰分析を行った。推計の結果は表 2 で示している。うつ傾向が従属変数となったモデルは、重回帰分析より推定された。主観的健康評価が順序付きカテゴリー変数であるので、それを従属変数にした母親の主観的健康評価のモデルと子どもの主観的健康評価モデルは順序ロジスティック回帰モデルにより推定された。

表 2 母親の就業形態と心身の健康問題の関連性に関する回帰分析の結果

| 従属変数                 | 小学生票              |                      |                      | 中学生票                |                      |                      |
|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|
|                      | うつ傾向              | 親健康評価                | 子健康評価                | うつ傾向                | 親健康評価                | 子健康評価                |
| 切片                   | 2.051<br>(1.687)  |                      |                      | 1.091<br>(1.628)    |                      |                      |
| 12                   |                   | -6.255***<br>(0.947) | -7.889***<br>(1.382) |                     | -9.007***<br>(0.996) | -7.065***<br>(1.285) |
| 23                   |                   | -3.771***<br>(0.808) | -6.637***<br>(1.056) |                     | -5.741***<br>(0.804) | -4.521***<br>(0.900) |
| 34                   |                   | -0.952<br>(0.794)    | -2.087*<br>(0.894)   |                     | -3.207***<br>(0.787) | -1.269<br>(0.859)    |
| 45                   |                   | -0.613<br>(0.794)    | -1.726<br>(0.893)    |                     | -2.892***<br>(0.785) | -0.883<br>(0.859)    |
| 年齢                   | -0.046<br>(0.033) | -0.022<br>(0.015)    | -0.025<br>(0.017)    | 0.003<br>(0.031)    | -0.074***<br>(0.015) | -0.027+<br>(0.016)   |
| 等価世帯年収(万円)           | -0.001<br>(0.001) | -0.000<br>(0.001)    | 0.001*<br>(0.001)    | -0.003**<br>(0.001) | 0.000<br>(0.001)     | 0.001*<br>(0.001)    |
| 母親高等教育ダミー            | -0.391<br>(0.369) | 0.317+<br>(0.173)    | 0.231<br>(0.188)     | -0.552<br>(0.348)   | 0.347*<br>(0.166)    | 0.436*<br>(0.174)    |
| 同居家族人数               | -0.022<br>(0.259) | -0.016<br>(0.118)    | 0.013<br>(0.131)     | -0.370<br>(0.259)   | 0.027<br>(0.122)     | 0.097<br>(0.138)     |
| 子ども数                 | -0.016<br>(0.312) | 0.057<br>(0.143)     | -0.049<br>(0.159)    | 0.060<br>(0.313)    | 0.070<br>(0.148)     | 0.065<br>(0.166)     |
| ひとり親世帯               | 0.250<br>(0.980)  | -0.907+<br>(0.473)   | -0.664<br>(0.480)    | 0.538<br>(0.886)    | -0.573<br>(0.431)    | 1.006+<br>(0.565)    |
| 外国籍母親                | -2.146<br>(1.746) | 0.424<br>(0.869)     | 0.070<br>(0.814)     | -0.434<br>(1.611)   | -1.654*<br>(0.785)   | 0.067<br>(0.883)     |
| 母仕事類型: 主婦・無職         | 0.782*<br>(0.398) | -0.297<br>(0.187)    | -0.060<br>(0.210)    | 1.315**<br>(0.422)  | -0.408*<br>(0.204)   | 0.183<br>(0.225)     |
| 母仕事類型: パート・自営        | 0.199<br>(0.374)  | 0.076<br>(0.175)     | 0.071<br>(0.199)     | 0.618+<br>(0.359)   | -0.314+<br>(0.174)   | 0.021<br>(0.189)     |
| 母仕事類型: フルタイム         | Ref.              | Ref.                 | Ref.                 | Ref.                | Ref.                 | Ref.                 |
| Aldrich-Nelson R-sq. | 0.498             | 0.601                | 0.061                | 0.050               | 0.048                | 0.027                |
| Log-likelihood       | -2650.139         | -2633.612            | -1032.066            | -1037.857           | -828.389             | -839.165             |
| BIC                  | 5368.839          | 5335.783             | 2146.405             | 2157.986            | 1739.051             | 1760.602             |
| N                    | 949               | 949                  | 949                  | 949                 | 949                  | 949                  |

Signif. codes: 0 '\*\*\*' 0.001 '\*\*' 0.01 '\*' 0.05 '+' 0.1

小学生票と中学生票の共通する特徴は、家庭の経済状況が豊かほど、子どもの健康状況がよくなる。高等教育を受けた女性は、主観的健康評価がより高い。そして、フルタイムの母親と比べて、主婦・無職の母親がうつ傾向が強く、主観的健康評価が低い。つまり、主婦の心身の健康状況に注目するのは必要であろう。それ以外、中学生票の結果からみれば、パートタイム・自営業・自由業に従事した母親の主観的健康評価はフルタイムの女性より低い。外国籍の母親の主観的健康評価は日本人女性より低い。高等教育を受けた母親は、子どもの主観的健康評価が高い。また、小学校票のみ見られるのは、ひとり親家庭の母親の主観的健康評価はふたり親家庭の女性より低い傾向がある。

主婦・無職の母親はなぜうつ傾向が高いのか、こうした疑問を解明するために、次節では女性の就業形態と育児孤立の関連性を調べることにした。

#### 4. 就業形態と育児孤立

本節は、母親の就業形態と育児孤立の関係を考察したい。まず、異なる母親の就業形態の間に、子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無と困り事や悩みのあるときの相談相手の有無を比較して見た。それをクロス表で示したのは表 3 から表 6 までである。「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無」について、小学生票と中学生票と共に、主婦・無職の育児孤立の発生率は他の就業形態の母親と比べてやや低い。ただし、どちらも統計的に有意ではない。

表 3 母親の就業形態と育児孤立（子どもの看病）（小学生票）

|         |              | 子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無 |       |      |
|---------|--------------|-------------------------|-------|------|
|         |              | いる                      | いない   | 合計   |
|         | フルタイム        | 度数 131                  | 36    | 167  |
|         |              | % 78.4%                 | 21.6% | 100% |
| 母親の就業形態 | パートタイム・自営・自由 | 度数 390                  | 91    | 481  |
|         |              | % 81.1%                 | 18.9% | 100% |
|         | 主婦・無職        | 度数 259                  | 49    | 308  |
|         |              | % 84.1%                 | 15.9% | 100% |
| 合計      |              | 度数 780                  | 176   | 956  |
|         |              | % 81.6%                 | 18.4% | 100% |

表 4 母親の就業形態と育児孤立（子どもの看病）（中学生票）

|         |              | 子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人の有無 |       |       |      |
|---------|--------------|-------------------------|-------|-------|------|
|         |              | いる                      | いない   | 合計    |      |
|         | フルタイム        | 度数                      | 127   | 32    | 159  |
|         |              | %                       | 79.9% | 20.1% | 100% |
| 母親の就業形態 | パートタイム・自営・自由 | 度数                      | 459   | 126   | 585  |
|         |              | %                       | 78.5% | 21.5% | 100% |
|         | 主婦・無職        | 度数                      | 171   | 39    | 210  |
|         |              | %                       | 81.4% | 18.6% | 100% |
| 合計      |              | 度数                      | 757   | 197   | 954  |
|         |              | %                       | 79.3% | 20.6% | 100% |

表 5 母親の就業形態と育児孤立（相談相手）（小学生票）

|         |              | 困った時や悩みがある時の相談者有無 |       |       |      |
|---------|--------------|-------------------|-------|-------|------|
|         |              | いる                | いない   | 合計    |      |
|         | フルタイム        | 度数                | 157   | 10    | 167  |
|         |              | %                 | 94.0% | 6.0%  | 100% |
| 母親の就業形態 | パートタイム・自営・自由 | 度数                | 458   | 23    | 581  |
|         |              | %                 | 78.8% | 21.2% | 100% |
|         | 主婦・無職        | 度数                | 294   | 14    | 308  |
|         |              | %                 | 95.5% | 4.5%  | 100% |
| 合計      |              | 度数                | 2454  | 909   | 47   |
|         |              | %                 | 92.6% | 95.1% | 4.9% |

表 6 母親の就業形態と育児孤立（相談相手）（中学生票）

|      |              | 困った時や悩みがある時の相談者有無 |       |      |      |
|------|--------------|-------------------|-------|------|------|
|      |              | いる                | いない   | 合計   |      |
|      | フルタイム        | 度数                | 150   | 9    | 159  |
|      |              | %                 | 94.3% | 5.6% | 100% |
| 母親職業 | パートタイム・自営・自由 | 度数                | 543   | 42   | 585  |
|      |              | %                 | 92.8% | 7.2% | 100% |
|      | 主婦・無職        | 度数                | 195   | 15   | 210  |
|      |              | %                 | 92.9% | 7.1% | 100% |
| 合計   |              | 度数                | 888   | 66   | 954  |
|      |              | %                 | 93.1% | 6.9% | 100% |

それに対し、中学生表から見れば、「困った時や悩みがある時の相談者の有無」について、主婦・無職

の母親は他の就業形態の母親より困った時や悩みのある時の相談相手がやや少ない。他の要因を統制した上で、母親の就業形態は育児孤立とどのような関連をもつかを調べるために、母親の就業形態を独立変数に回帰分析をした。その結果を表 7 で示している。小学生票の回帰分析の結果によると、主婦・無職の母親は、フルタイムの仕事に就いている母親と比べて、子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人のいない確率が 90%の有意水準で低い。一方、この傾向は中学生票で検証されなかった。

小学生票と中学生票の共通の結果として、同居家族の人数が多いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が低い。また、子どもの数が多いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が高い。また、中学生票の結果によれば、日本人母親と比べ、外国人母親の相談相手が少なく、母親の年齢が高いほど、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」の発生率が高くなる。それに対して、小学生票において、ふたり親家庭と比べて、ひとり親家庭の母親は「困った時や悩みがある時の相談者がいない」状況に陥る可能性が高い。

つまり、育児孤立に至った原因には、母親の雇用形態より同居家族人数、子どもの人数、外国籍であるかどうかなどの複層の要因が絡んでいる。次節では、育児孤立が女性の心身の健康に対してどのような影響を与えるかについて分析を行う。



表 7 母親の就業形態と育児孤立に関する回帰分析の結果<sup>2</sup>

| 従属変数                 | 小学生票                |                     | 中学生票                |                     |
|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
|                      | 子どもの看病              | 相談相手                | 子どもの看病              | 相談相手                |
| 切片                   | -0.696<br>(1.242)   | -3.394+<br>(1.910)  | 0.157<br>(1.102)    | -1.763<br>(1.572)   |
| 年齢                   | 0.052*<br>(0.021)   | 0.040<br>(0.037)    | -0.008<br>(0.019)   | -0.010<br>(0.030)   |
| 等価世帯年収(万円)           | -0.000<br>(0.001)   | -0.000<br>(0.001)   | 0.000<br>(0.001)    | -0.003**<br>(0.001) |
| 母親高等教育ダミー            | -0.567**<br>(0.220) | -1.000**<br>(0.338) | 0.325<br>(0.236)    | -0.002<br>(0.328)   |
| 同居家族人数               | -1.137**<br>(0.371) | 0.011<br>(0.289)    | -0.770**<br>(0.264) | 0.127<br>(0.218)    |
| 子ども数                 | 1.166**<br>(0.391)  | -0.171<br>(0.349)   | 0.837**<br>(0.288)  | -0.592*<br>(0.286)  |
| ひとり親世帯               | -1.030<br>(0.842)   | 0.049<br>(1.105)    | 0.153<br>(0.540)    | 1.116*<br>(0.568)   |
| 外国籍母親                | 1.082<br>(0.906)    | 1.523<br>(1.075)    | 0.415<br>(0.905)    |                     |
| 母仕事類型: 主婦・無職         | -0.434+<br>(0.252)  | -0.251<br>(0.436)   | -0.104<br>(0.271)   | 0.117<br>(0.445)    |
| 母仕事類型: パート・自営        | -0.197<br>(0.230)   | -0.266<br>(0.408)   | 0.117<br>(0.227)    | 0.251<br>(0.386)    |
| 母仕事類型: フルタイム         | Ref.                | Ref.                | Ref.                | Ref.                |
| Aldrich-Nelson R-sq. | 0.033               | 0.013               | 0.019               | 0.022               |
| Log-likelihood       | -440.285            | -181.530            | -476.936            | 459.780             |
| BIC                  | 949.171             | 431.661             | 1022.433            | 520.408             |
| N                    | 953                 | 953                 | 949                 | 949                 |

Signif. codes: 0 '\*\*\*\*' 0.001 '\*\*\*' 0.01 '\*\*' 0.05 '+' 0.1

## 5. 育児孤立と身体・精神の健康

回帰分析を実行する前に、まず、棒グラフで育児孤立と女性の心身健康の関係を表現した。図 7 から図 18 まで 12 つの図で示したとおり、子どもの看病をしてくれる人の有無と相談相手の有無と共に、いずれの育児孤立の形態も女性の心身の健康状況に負の影響を与え、育児孤立に落ちいった母親がそうではない母親より親子ともに主観的健康評価が低く、うつ傾向が高い傾向が観察される。

第 3 節と同じように、うつ傾向が従属変数となったモデルは、重回帰分析で推定した。主観的健康評価が順序つきカテゴリー変数であるため、それを従属変数にしたモデルは、順序ロジスティック回帰モデルで推定した。

<sup>2</sup> 中学生票を用いた分析の中で、「相談相手のいない」が従属変数となったモデルにおいて、母親が外国籍の方であるケース数がかなり少ないため、回帰分析の結果の歪みは生じる可能性がある。そのため、分析の際に、「母親が外国籍」をモデルから除外した。

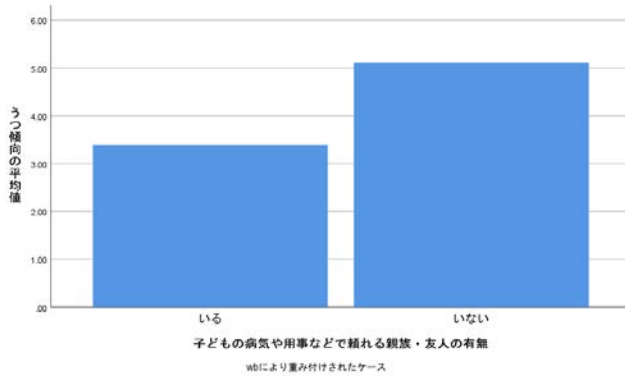


図 7 育児孤立（子どもの看病）と母親のうつ傾向（小学生票）

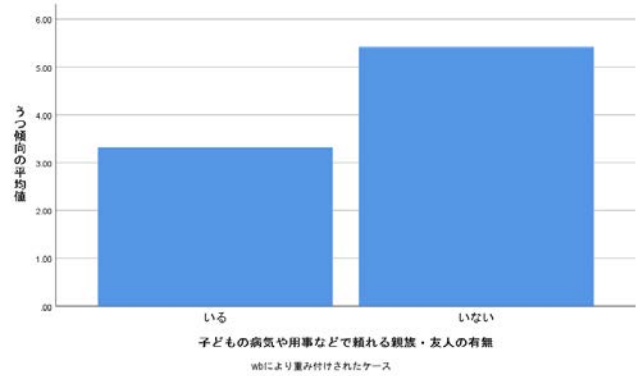


図 8 育児孤立（子どもの看病）と母親のうつ傾向（中学生票）

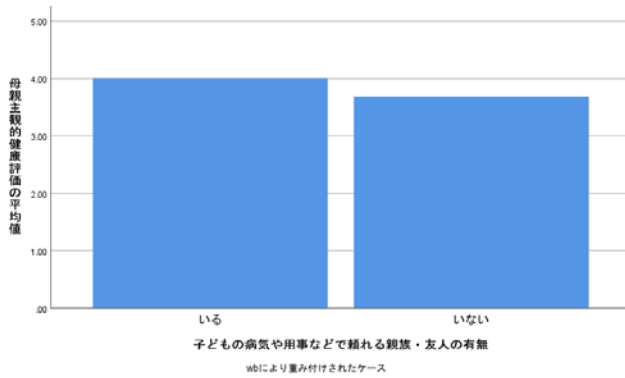


図 9 育児孤立（子どもの看病）と母親の主観的健康評価（小学生票）

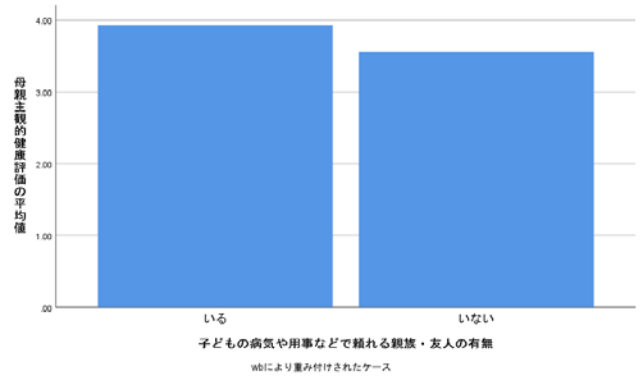


図 10 育児孤立（子どもの看病）と母親の主観的健康評価（中学生票）

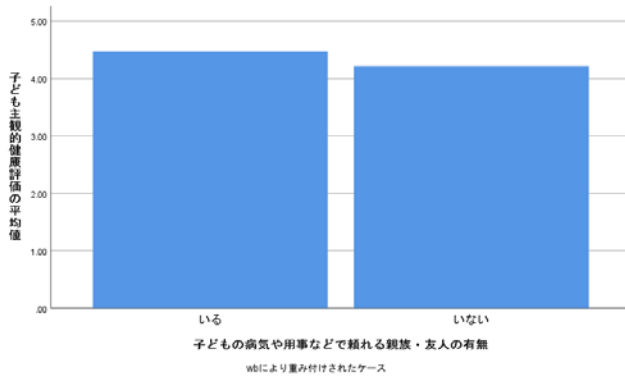


図 11 育児孤立（子どもの看病）と子どもの主観的健康評価（小学生票）

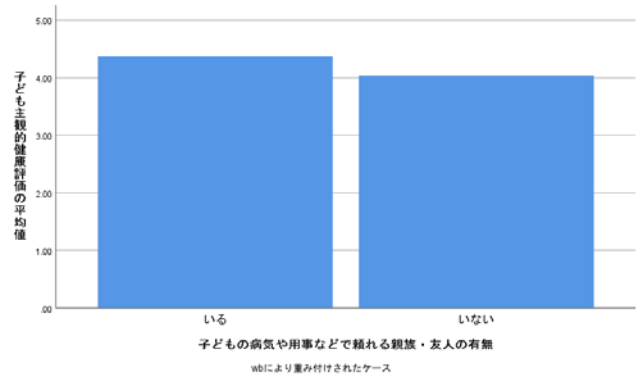


図 12 育児孤立（子どもの看病）と子どもの主観的健康評価（中学生票）

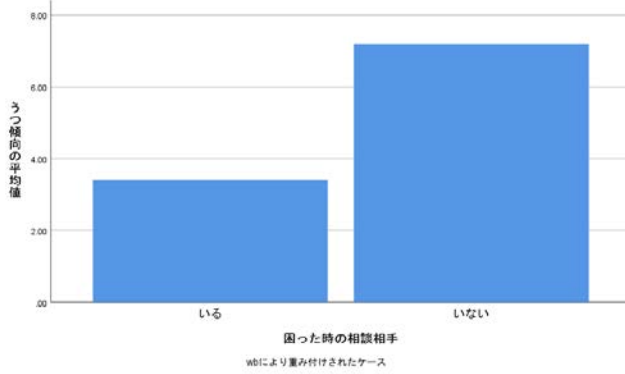


図 13 育児孤立（相談相手）と母親のうつ傾向（小学生票）

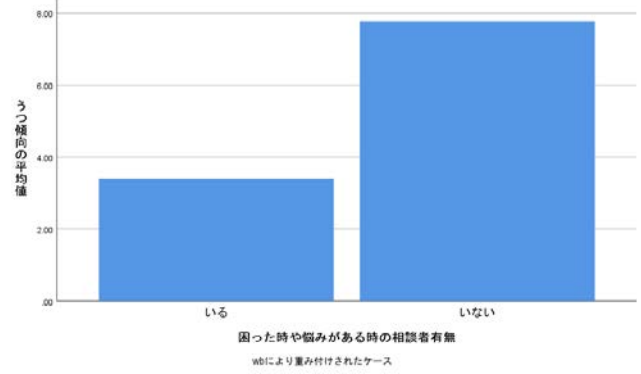


図 14 育児孤立（相談相手）と母親のうつ傾向（中学生票）

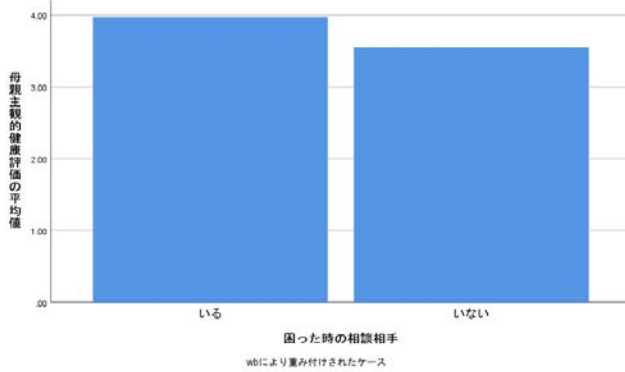


図 15 育児孤立（相談相手）と母親の主観的健康評価（小学生票）

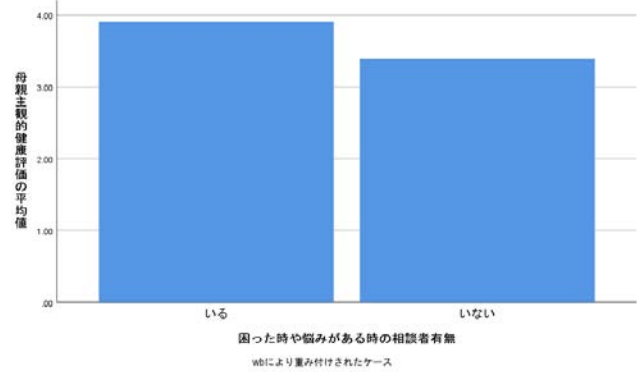


図 16 育児孤立（相談相手）と母親の主観的健康評価（中学生票）

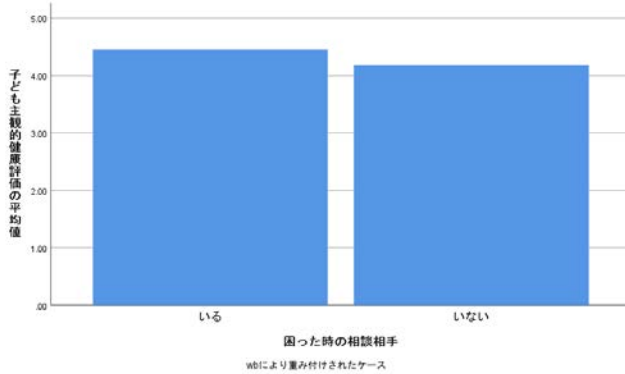


図 17 育児孤立（相談相手）と子どもの主観的健康評価（小学生票）

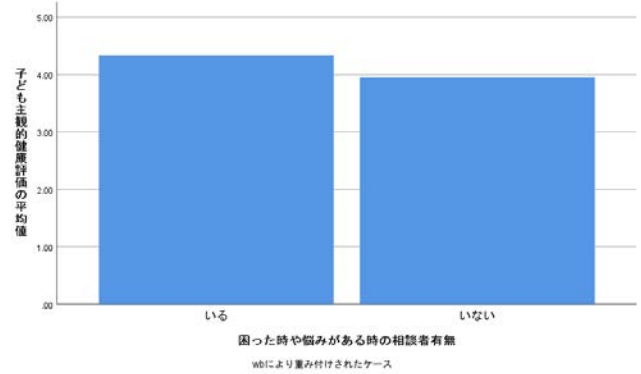


図 18 育児孤立（相談相手）と子どもの主観的健康評価（中学生票）

まず小学生票の結果を確認しよう。グラフの示した傾向と同じ、回帰分析の結果からみれば、「子どもの病気や用事などで頼れる親族・友人がいない」母親は、うつ傾向と健康問題を抱く確率がより高く、子どもの主観的健康評価がより低い。また、「困った時や悩みがある時の相談者がいない」母親は、うつ傾向が比較的に高いということが分かった。

表 8 育児孤立と心身健康の関連性に関する回帰分析の結果（小学生票）

| 従属変数                 | 小学生票                |                     |                      |                      |                      |                      |
|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
|                      | うつ傾向1               | うつ傾向2               | 親健康評価1               | 親健康評価2               | 子健康評価1               | 子健康評価2               |
| 切片                   | 2.415<br>(1.634)    | 2.479<br>(1.633)    |                      |                      |                      |                      |
| 1 2                  |                     |                     | -6.195***<br>(0.929) | -6.148***<br>(0.927) | -7.908***<br>(1.365) | -7.896***<br>(1.363) |
| 2 3                  |                     |                     | -3.714***<br>(0.787) | -3.667***<br>(0.784) | -6.655***<br>(1.034) | -6.644***<br>(1.032) |
| 3 4                  |                     |                     | -0.895<br>(0.772)    | -0.859<br>(0.770)    | -2.096*<br>(0.869)   | -2.095*<br>(0.866)   |
| 4 5                  |                     |                     | -0.556<br>(0.772)    | -0.521<br>(0.770)    | -1.733*<br>(0.868)   | -1.734*<br>(0.865)   |
| 年齢                   | -0.055+<br>(0.033)  | -0.051<br>(0.032)   | -0.018<br>(0.015)    | -0.021<br>(0.015)    | -0.020<br>(0.017)    | -0.025<br>(0.017)    |
| 等価世帯年収(万円)           | -0.001<br>(0.001)   | -0.001<br>(0.001)   | -0.000<br>(0.001)    | -0.000<br>(0.001)    | 0.001*<br>(0.001)    | 0.001*<br>(0.001)    |
| 母親高等教育ダミー            | -0.307<br>(0.369)   | -0.279<br>(0.369)   | 0.277<br>(0.173)     | 0.301+<br>(0.173)    | 0.193<br>(0.189)     | 0.236<br>(0.189)     |
| 同居家族人数               | 0.044<br>(0.258)    | -0.050<br>(0.257)   | -0.041<br>(0.118)    | -0.009<br>(0.117)    | -0.023<br>(0.130)    | 0.014<br>(0.130)     |
| 子ども数                 | -0.100<br>(0.312)   | 0.015<br>(0.310)    | 0.076<br>(0.143)     | 0.045<br>(0.142)     | -0.009<br>(0.159)    | -0.049<br>(0.159)    |
| ひとり親世帯               | 0.274<br>(0.976)    | 0.177<br>(0.975)    | -0.913+<br>(0.474)   | -0.883+<br>(0.472)   | -0.691<br>(0.481)    | -0.653<br>(0.479)    |
| 外国籍母親                | -2.534<br>(1.738)   | -2.611<br>(1.738)   | 0.539<br>(0.864)     | 0.492<br>(0.868)     | 0.177<br>(0.810)     | 0.066<br>(0.812)     |
| 育児孤立(子どもの看病)         | 1.192***<br>(0.343) |                     | -0.432**<br>(0.162)  |                      | -0.474**<br>(0.174)  |                      |
| 育児孤立(相談相手)           |                     | 2.220***<br>(0.611) |                      | -0.308<br>(0.292)    |                      | 0.059<br>(0.328)     |
| Aldrich-Nelson R-sq. | 0.254               | 0.265               | 0.017                | 0.011                | 0.019                | 0.011                |
| Log-likelihood       | -2694.058           | -2693.483           | -1018.912            | -1021.919            | -752.677             | -756.294             |
| BIC                  | 5456.716            | 5455.565            | 2120.145             | 2126.158             | 1587.675             | 1594.908             |
| N                    | 953                 | 953                 | 953                  | 953                  | 953                  | 953                  |

Signif. codes: 0 '\*\*\*' 0.001 '\*\*' 0.01 '\*' 0.05 '+' 0.1

さらに、中学生票の分析結果を見よう。表 9 の示したように、2 つのタイプの育児孤立は、母親の精神状態と主観的健康評価に対して悪い影響を与えるということが確認できる。そのうえで、2 種類の育児孤立は子どもの主観的健康評価に対してもネガティブな影響があるということが分かった。つまり、母親の健康と子どもの健康を守るために、母親の育児孤立の状況を解消させることは、政策の注力すべき焦点である。

表 9 育児孤立と心身健康の関連性に関する回帰分析の結果（中学生票）

| 従属変数                 | 中学生票                 |                     |                      |                      |                      |                      |
|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
|                      | うつ傾向1                | うつ傾向2               | 親健康評価1               | 親健康評価2               | 子健康評価1               | 子健康評価2               |
| 切片                   | 1.039<br>(1.574)     | 1.185<br>(1.545)    |                      |                      |                      |                      |
| 1 2                  |                      |                     | -9.049***<br>(0.988) | -8.850***<br>(0.983) | -7.554***<br>(1.283) | -7.233***<br>(1.276) |
| 2 3                  |                      |                     | -5.774***<br>(0.794) | -5.576***<br>(0.788) | -5.003***<br>(0.897) | -4.689***<br>(0.887) |
| 3 4                  |                      |                     | -3.204***<br>(0.776) | -3.025***<br>(0.770) | -1.704*<br>(0.855)   | -1.428<br>(0.845)    |
| 4 5                  |                      |                     | -2.884***<br>(0.775) | -2.708***<br>(0.769) | -1.309<br>(0.854)    | -1.040<br>(0.844)    |
| 年齢                   | 0.006<br>(0.030)     | 0.005<br>(0.030)    | -0.076***<br>(0.015) | -0.075***<br>(0.015) | -0.030+<br>(0.016)   | -0.028+<br>(0.016)   |
| 等価世帯年収(万円)           | -0.004***<br>(0.001) | -0.003*<br>(0.001)  | 0.000<br>(0.001)     | 0.000<br>(0.001)     | 0.001*<br>(0.001)    | 0.001+<br>(0.001)    |
| 母親高等教育ダミー            | -0.592+<br>(0.342)   | -0.497<br>(0.336)   | 0.384*<br>(0.166)    | 0.353*<br>(0.165)    | 0.507**<br>(0.175)   | 0.448**<br>(0.173)   |
| 同居家族人数               | -0.241<br>(0.255)    | -0.432+<br>(0.250)  | -0.020<br>(0.122)    | 0.042<br>(0.122)     | 0.021<br>(0.139)     | 0.097<br>(0.139)     |
| 子ども数                 | -0.103<br>(0.309)    | 0.246<br>(0.303)    | 0.135<br>(0.148)     | 0.033<br>(0.147)     | 0.153<br>(0.168)     | 0.040<br>(0.167)     |
| ひとり親世帯               | 0.328<br>(0.867)     | -0.198<br>(0.855)   | -0.481<br>(0.432)    | -0.366<br>(0.428)    | 1.122+<br>(0.577)    | 1.126*<br>(0.572)    |
| 外国籍母親                | -0.203<br>(1.579)    | 0.472<br>(1.552)    | -1.631*<br>(0.792)   | -1.846*<br>(0.786)   | 0.196<br>(0.877)     | 0.068<br>(0.883)     |
| 育児孤立(子どもの看病)         | 2.032***<br>(0.314)  |                     | -0.744***<br>(0.157) |                      | -0.860***<br>(0.163) |                      |
| 育児孤立(相談相手)           |                      | 4.330***<br>(0.494) |                      | -0.834***<br>(0.252) |                      | -0.605*<br>(0.250)   |
| Aldrich-Nelson R-sq. | 0.269                | 0.247               | 0.080                | 0.106                | 0.051                | 0.044                |
| Log-likelihood       | -2837.149            | -2754.504           | -1071.832            | -1057.506            | -763.174             | -766.941             |
| BIC                  | 5736.519             | 5570.963            | 2219.712             | 2190.736             | 1601.968             | 1609.461             |
| N                    | 1005                 | 976                 | 1005                 | 976                  | 967                  | 963                  |

Signif. codes: 0 '\*\*\*' 0.001 '\*\*' 0.01 '\*' 0.05 '+' 0.1

## 6. まとめ

本報告書の分析を通じ、母親の仕事の形式、育児孤立の状況、そして心身の健康といった三者の関係が解明された。まず、フルタイムの仕事に就いている母親と比べて、主婦・無職の母親の心身の健康はあまりよくない。「フルタイム」、「パートタイム・自営業・自由業」、「主婦・無職」という3つの就業形態の女性は、育児孤立の状況が大きな差が見えなかった。つまり、主婦・無職の心身健康の問題は、育児孤立から由来したものとは言えず、日常生活における様々な問題の総合的作用の結果かもしれない。

また、分析の結果によれば、育児孤立の状況は、母親の心身の健康のみならず、子どもの健康状況に対してもネガティブな影響を与える。子どもを育てている養育者に対して支援を行う際に、育児孤立の改善は重要な一環となるべきである。